

病防第16号  
平成28年4月28日

各 { 関係機関の長  
市町村長（農務関係課）  
農業協同組合長  
農業共済組合長  
病虫害防除員 } 様

岐阜県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報（地区情報）の送付について

別紙のとおり予想されますので、指導上の参考にしてください。

記

平成28年度 病虫害発生予察情報（美濃地域） 5月予報

所 属	岐阜県病虫害防除所 防除指導係		
係 長	桑 原	担 当	佐 藤
TEL	058-239-3161（直通）		
FAX	058-234-0767		

# 病害虫発生予察情報

## 平成28年度 病害虫発生予察情報(美濃地域) 5月予報

### 【 麦類 】

#### 赤かび病

本年の農林61号の出穂期は4月3日(11/5は種：農業技術センター作物部調べ)と平年(4/16)より早くなりました。本病の発生には、開花期～乳熟期の気温や降雨、湿度が大きく影響します。本年の気象は4月上旬から中旬にかけて曇雨天が続き、第一次伝染源となる子のう殻形成や子のう胞子飛散に好適な日が多く、ほ場内の菌密度は高いと考えられます(表1)。今後も不安定な天候が続くと予想されており、穂での発病や形成された分生子による二次感染が懸念されるため、出穂7～10日後の開花期とその10日後の**2回防除を必ず実施して下さい**。

なお、出穂時期は、は種時期や環境条件の違いにより大きく異なる可能性があります。ほ場の出穂・開花状況を確認し防除日を決定してください。

### ○主な病害虫の発生時期及び防除時期(5月)

	病害虫名 (防除適期)	生育状況 発生量	発生時期及び防除適期						防除上の注意事項	
			1旬	2旬	3旬	4旬	5旬	6旬		
水 稲	生育		〈田植え〉						・コシヒカリ(早植)	
	イネミズゾウムシ	少							・箱施薬を実施する。	
	ヒメトビウンカ	並						〈幼虫発生最盛期〉	・ほ場周辺や畦畔の雑草処理を実施する。	
	防除適期		▲(箱施薬)イネミズ・ヒメトビ						*は小麦ほ場内	
麦 類	生育	早							・農林61号:出穂期 4/3(11/5:農業技術センター)	
	赤かび病	やや多	二次感染期〉						・開花期およびその10日後の2回防除を実施する。	
	防除適期									
カ キ	生育	やや早							・富有:展葉期 4/6(平年 4/11)	
	ハマキムシ類	やや多	〈越冬世代成虫〉 (中濃)		〈第1世代幼虫〉 (岐阜・西濃)				・幼虫発生初期の防除を徹底する。 ・岐阜・西濃では、ミツバチの導入時に注意し防除を実施する。	
	防除適期		▲ ~							
	フジコナカイガラムシ	やや多	越冬成虫(越冬場所からの移動)〉						・昨年の多発箇所を確認して重点的に防除を実施する。	
ナ シ	生育	やや早							・幸水:開花最盛期 4/10(平年 4/14)	
黒星病	やや多	初発生〉						・薬剤抵抗性がつきやすいため同一系統薬剤の連用は避ける。		
防除適期		~ ▲								
果 樹	カメムシ類	並						〈越冬世代成虫〉	・サクラ果実吸汁率調査など、今後の情報に注意する。	
	防除適期									
茶	生育	並	摘採期〉 (岐阜・西濃)		〈摘採期〉 (中濃)				・やぶきた:第1開葉期 4/9(平年 4/14)	
	岐阜西濃 中濃	多	成虫発生最盛期〉						・ふ化期～若齢幼虫期の防除を徹底する。	
	ハマキムシ類	並	〈成虫発生最盛期〉							
	防除適期		▲ 岐阜・西濃 ▲							
施 設 野 菜	トマト	灰色かび病	やや多	調査ほ場で発病が認められる。曇天が続く場合は発生が増加すると予測される。(発病果率 0.7%)						・発生初期の防除を徹底する。 ・施設内が多湿とならないよう、湿度管理に注意する。特に夜間は多湿となりやすいため注意する。
	トマト	葉かび病	やや少	調査ほ場で発病が認められる。曇天が続く場合は発生が増加すると予測される。(発病小葉率 0.1%)						
	キュウリ	べと病	多	調査ほ場で発病が認められる。曇天が続く場合は発生が増加すると予測される。(発病葉率 3.1%)						・葉かび病では、薬剤が確実に葉裏にかかるよう丁寧に散布する。
		褐斑病	やや少	調査ほ場では発病は認められない。罹病性品種では発生に注意する。(発病葉率 0.0%)						
		うどんこ病	やや多	調査ほ場で発病が認められる。気温上昇に伴い発生が増加すると予測される。(発病葉率 2.8%)						
野 菜 類	コナガ	やや少							・薬剤抵抗性がつきやすいため同一系統薬剤の連用は避ける。 ・アブラムシ類 定植時に粒剤施用する。	
	アブラムシ類	多								
	防除適期									

注1) ▲、▲~▲:防除適期

注2) 美濃地域は岐阜、西濃、中濃および東濃地域

## 麦類赤かび病

表1 4月の麦類赤かび病感染好適条件出現状況

日	降水量 (mm)	気温(°C)			湿度(%) 平均	子のう殻 形成	子のう 胞子飛散
		平均	最高	最低			
1	0.0	13.7	16.0	12.0	64		▲
2	0.0	15.7	21.5	11.2	73		▲
3	4.0	16.9	19.3	14.4	69	●	◎
4	40.0	15.2	19.9	11.6	84	●	◎
5	--	13.8	19.1	9.8	54	●	△
6	--	15.1	22.3	7.5	48		
7	52.5	12.1	15.3	10.2	88		◎
8	--	15.2	19.2	9.9	63	●	△
9	--	16.4	24.7	8.7	50		
10	--	16.5	22.2	11.1	56		▲
11	--	12.1	15.6	6.8	41		
12	--	11.0	16.9	3.9	51		
13	20.0	12.8	14.7	11.0	89		△
14	5.0	18.3	26.7	12.7	67	●	◎
15	--	15.8	21.4	10.2	34	●	◎
16	--	16.0	22.9	7.5	47		
17	11.5	19.9	27.6	16.2	62	●	◎
18	0.0	16.0	19.2	12.2	46		▲
19	--	14.5	20.5	8.4	40		
20	--	14.7	20.9	7.1	56		
21	86.5	15.4	18.4	13.3	81	●	◎
22	2.5	17.8	23.6	13.5	71	●	◎
23	0.5	18.1	24.3	12.5	72	●	◎
24	0.0	17.7	24.4	14.0	62	●	◎
25	--	18.5	22.4	15.2	67		▲
26	--	19.7	26.1	13.4	63		▲

※岐阜アメダスデータによる。

1) 子のう殻形成好適日

●：降雨直後(当日および翌日)かつ平均気温が13°C以上であった日

2) 子のう胞子好適日

◎：濡れ条件と温度条件を両方満たした日

▲：濡れ条件を満たしたが、温度条件を満たしていない日

△：濡れ条件を満たしていないが、温度条件を満たした日

※濡れ条件：降雨直後(当日または翌日)または湿度が80%以上

温度条件：最高気温が15°C以上かつ最低気温が10°C以上

## 野菜 アブラムシ類

本県では成虫での越冬は難しく、草本等に卵で越冬し、春先に孵化した有翅虫がほ場へ飛来します。県内のほ場で見られるのは主にワタアブラムシとモモアカアブラムシです。有翅虫以外は移動することは少なく、寄生植物で群生し、吸汁を繰り返します。雌は単為生殖を行うため、爆発的に増加します。

被害は、吸汁による生育阻害(とくに幼苗期)、排泄物に発生するすす病のほか、CMV等のウイルスを媒介します。

ほ場内外の雑草の除去、シルバーマルチ・シルバーテープ等の忌避資材の設置や、ほ場の周辺にネットを展張することで本虫のほ場への飛来を防止し、植え付け時には本虫の寄生の有無を確認して、健全な苗を定植して下さい。

多発してからの薬剤防除は、効果が劣るため、発生前や発生初期に薬剤防除を行う必要があります。薬剤は定植時の粒剤施用または浸透移行性のある散布剤を用います。浸透移行性のない散布剤による防除の場合はとくに虫体にかかるよう丁寧にいきましょう。

なお、薬剤によっては天敵への影響が大きいため、薬剤の選択には注意し、また、本虫は薬剤抵抗性がつきやすいため、同一系統薬剤の連用は避けて下さい。

岐阜県病害虫防除所HPに「[ナス アブラムシ類](#)」の解説がありますので参考にしてください。

### 農薬の安全使用に努めましょう！！

農薬の適正な使用、保管管理に努め、農薬散布する場合は、周辺に栽培されている作物のみでなく、住宅地等を含めて飛散がないよう、十分に配慮してください。

### 東海地方1カ月予報(名古屋地方気象台 4月21日発表)

向こう1カ月の気温は平年より高く、降水量は平年並～多く、日照時間は平年より少ないと予想されています。天気は数日の周期で変わり、平年に比べ晴れの日が少ない見込みです。

## ナシ黒星病

本病は、近年、発生量が増加し、昨年度の防除所の調査では春期だけでなく、秋期でも発病が確認されています。本年は4月下旬の調査で花そう基部での発病が確認されています。

本病は、前年の落葉上に形成される子のう胞子と腋花芽基部に形成される分生子が第一次伝染源となり、葉や果実に感染します。葉に感染しやすいのが豊水、次いで長十郎や幸水とされています。果実では幸水が最も感染しやすく、特に開花直後から20日後頃までの幼果期、開花60～85日後の果実の生育後期は感染しやすいとされています。

重要な防除時期は、落葉から飛散してきた胞子による伝染や芽基部病斑の胞子形成抑制を目的とした開花直前および満開約10日後と果実肥大期の開花65日後(6月下旬頃)～開花85日後(7月上旬頃)です。昨年発生が多かったほ場や本年発生が確認されたほ場では特に防除を徹底してください。

岐阜県病害虫防除所HPに「[ナシ黒星病](#)」の解説がありますので参考にしてください。

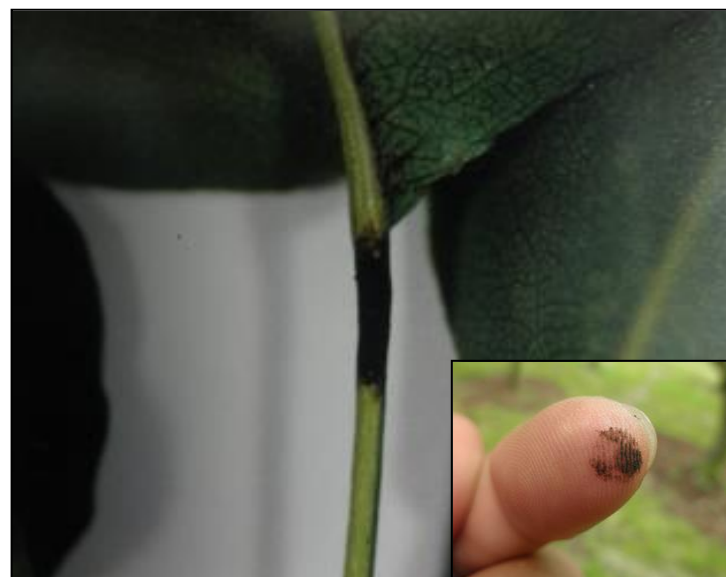


図1 葉柄部に形成された胞子(指で擦ると黒色の胞子が付着します)

岐阜県病害虫防除所では、この他に病害虫の詳細な調査データをホームページにて公開しています。

[http://www.pref.gifu.lg.jp/sangyo/nogyo/gifu-clean/24321/index\\_12132.html](http://www.pref.gifu.lg.jp/sangyo/nogyo/gifu-clean/24321/index_12132.html)

〒501-1152 岐阜市又丸729 TEL (058) 239-3161 FAX (058) 234-0767